

書評

[評者]
久志本成樹
東北大学大学院教授・救急医学



救急レジデントマニュアル 第6版 堀 進悟 監修 佐々木淳一 編

●B6変型 頁594 2018年5月
定価：本体4,800円+税
[ISBN978-4-260-03539-2]医学書院刊

救急医療では、緊急性に適切に対応すること，すなわちタイムリーに診療を開始することが重要です。しかし，救急に携わるスタッフが救急患者の診療を開始した段階では，緊急性の程度ばかりでなく罹患臓器も不明であり，いずれの病態の緊急性にも対応できる知識と技術が必要になります。急病，外傷，中毒など，原因や罹患臓器の種類にかかわらず，全ての緊急性に対応する診療能力が重要です。

正確な診断よりも病態に対する蘇生・治療が優先されるショックや呼吸不全患者への対応，救急患者に多く見られる症候からの時間を意識した考え方と対応，そのための検査や治療手技，さらに社会的事項や各種スコアリングなど，救急に携わるスタッフが知っておくべき知識と情報は多岐にわたります。そして，限られた時間と資源という大きな制約を伴う状況でこれらを使いこなし，判断と確実な治療につなげなければなりません。この「限られた時間」「限定された資源」という制約が，救急診療が一般診療と著しく異なる点です。また，この相違こそが救急たるゆえんであり，醍

醐味ですらあります。

25年前に慶大救急医学教室・相川直樹教授(当時)のリーダーシップによって初版が発行され，今回，佐々木淳一教授編集，堀進悟前教授監修により第6版として出版された『救急レジデントマニュアル』は，救急医療のベッドサイドバイブルということのできる一冊です。症候からのアプローチにおいては，「どのように判断して，いかに動くか」に始まる記載で統一されており，限られた時間における判断とこれに基づく対応において最優先となるポイントが明確に記されています。重症度判断，適切な診断とそのための検査や鑑別の考え方，その上で行うべき対応といった本書の構成は，救急スペシャリストの思考過程そのものを形にしたものです。

救急医療に携わる全てのスタッフが，最新の知見に基づく理論的な「時間を意識した診療」の展開を可能とするマニュアルとして，自信を持って推薦する一冊です。